

2017年
3月10日

No.220

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24

さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)

TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協2017春闘学習会

ブラック企業化防止は労働者の権利学習と労働組合の日常活動と団体交渉

2月11日から12日にかけて、京都・ホテル本能寺で、近畿地協2017春闘学習会が開催されました。前日からの豪雪のため、米子や京都北部の一部の仲間が参加できませんでしたが、北陸や東京の仲間を含め33人が、さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

学習会は右欄の日程のとおり行われました。

冒頭、岡野議長が、沖縄辺野古新基地強行や南スーダンでの戦闘行為、共謀罪など、最近の日本の危険な政治状況に警鐘を鳴らした後、「利益至上主義の経営は労働者に必ずしわよせをもたらす。金融機関もブラック企業化している。この学習会でニセモノの『働き方改革』の本質を学び、当

り前に暮らしていけるようにがんばりましょう」とあいさつしました。

講演は、京都南法律事務所の毛利弁護士が「ストップ！企業のブ



講演をする毛利弁護士

ラック化」と題して行なわれました。

毛利弁護士は、「15年程前に過労自殺を発生させた電通が、最高裁で断罪されたのに、昨年、また同じような悲劇を生み出したことを、弁護士の間では『また電通か』と言われるぐらい、反省をしていない大企業の姿を浮き彫りにした。しかし、電通の事件は氷山の一角であって、企業のブラック化は全国各地に広がっている。

ブラック企業を生まないためには、「労働者が権利を知り相談先を知って、ブラックな状態を告発可能にすることが大切。労働組合は、経営者を団体交渉に応じさせる力を持っている。自分の企業がブラック化しないように、日々活動し改善していくことが大切」として、労働組合の役割を強調しました。

「36協定を締結せずに残業をさせた場合、労働基準法違反の犯罪で、6カ月以下の懲役または30万円以下の罰金と定められていて、『公然わいせつ罪』の量刑に匹敵する。」「労働者の命をないがしろにして企業の利益を確保する(次頁へ)



開会あいさつをする岡野議長



マリオネット 岩波 美智子さん 画

近畿地協春闘学習会日程

- 11日(土)
 - ・開会・議長あいさつ
 - ・講演「ストップ！企業のブラック化」
 - 講師 京都南法律事務所・毛利崇弁護士
 - ・訴え パワハラ解雇とのたたかい (大阪シティ信金 尾形さん)
 - ・公益通報者への報復解雇とのたたかい (武生信金職組 松塚・林さん)
 - ・試用期間延長・満了解雇とのたたかい (大同信組 熊野さん)
 - ・悪質な不当労働行為とのたたかい (全印総連プリントバック 大橋さん)
- 12日(日)
 - ・問題提起・分散会・夕食交流会
 - ・分散会・全体会議・閉会

(前頁から) ような企業・経営者は裁かれてしかるべきだという認識を広めていくことが大切」と話されたことが特に印象に残りました。

講演に続いて、武生信金・大同信組・大阪シティ信金のなかまが、それぞれの解雇撤回に向けた、たたかいを報告し支援を訴え、「ブラック企業を社会的に包囲する闘い」に取り組むプリントパック争議団のなかまからも報告と支援の訴えが行われました。

分散会では、講演の感想や職場や生活の実態



熱心に聞き入る参加者

や悩みなどを話し合い、「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」などを学びました。

第17回湖北母親大会 半世紀前の太平洋核実験

2月25日、長浜市民交流センターにおいて、第17回湖北母親大会があり、戦後日本の闇に迫るドキュメンタリー映画「放射線を浴びたX年後2」が上映されました。参加された清水分会委員から感想をいただきました。

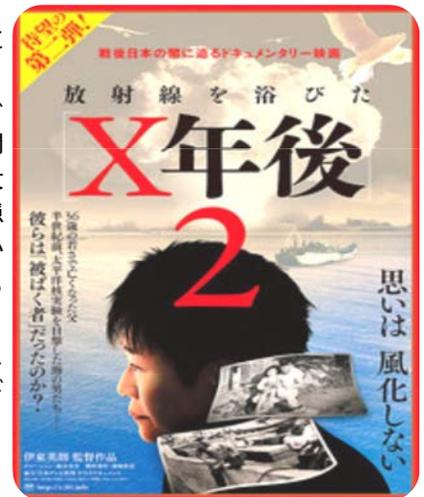
2年前に第1作を観て、第五福龍丸の事しか知らず衝撃を受けました。終戦直後の1946年。太平洋上で、米国による核実験が始まりました。しかし多くの漁船が、その後100回を超える実験期間中も近海でいつも通り操業を続けていました。1954年3月1日に爆発させたビキニ環礁での水爆実験「ブラボー」は広島に落とされた原爆の1000倍以上の破壊力がありました。しかし、マグロの値段が下がる、売れなくなるとして、乗組員の健康被害を放置して、日米政府は200万ドルと引き換えに実態を隠したのです。

第2作では第1作の映画との出会いがきっかけとなり、漁師だった父の死に疑問を抱き始め

歴史は真実を教えてくれる

た2人の子どもが動き始めます。元漁師たちの証言や関係者への聞き取りで「船員手帳のその頃が破られていた」「子どもの結婚に影響するか心配で言えなかった」等、苦悩された様子は胸に迫るものがありました。日本列島に影響を及ぼした巨大被ばく事件を知らされないまま半世紀を経ましたが、今徐々に明らかになってきています。

安全や核をめぐる国のあり方が問われています。大事な物を破棄し隠して、嘘とごまかして悪政を進める安倍政権ですが、歴史は真実を教えてくれる事を学びました。



饗庭野基地学習講演会

基地をよく知り、機敏に抗議し封じていくことが大切

3月4日、長浜市神照公民館において、「饗庭野基地学習講演会」があり、山崎書記長が参加しました。

早藤吉男県平和委員会代表理事・高島平和委員会会長より「饗庭野演習場の現状と闘い」と題して、今津駐屯地や饗庭野演習場の日本の安保体制における重要な位置づけについて、自衛隊や米軍全体の動きから解明し、常に多面的に見ていく必要があることや、この間に起きた基地問題にも機敏に抗議をして成果を勝ち取り、相手の動きを封じ

ていくことの大切さを強調されました。

元陸上自衛隊第1空挺団の湯本知文氏からは、「平成自衛隊～日本のデフェンス部隊としてこうあるべきだ～」と題して、自衛隊の組織・米軍との関係等を体験をまじえて具体的に説明されました。非常時に備えて厳しい訓練は必要だが、装備も指揮系統もアメリカ一辺倒では日本を守ることはできない。北朝鮮からミサイルを撃たれても、日本は近すぎて間に合わず、撃ち落とせない。本当の平和は外交でしか実現できないと断言されたことが印象に残りました。



講演をする早藤氏



講演をする湯本氏